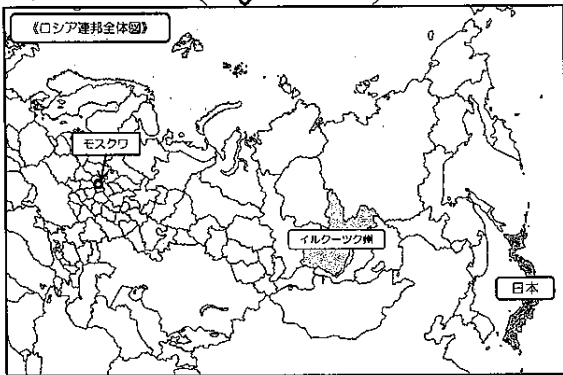
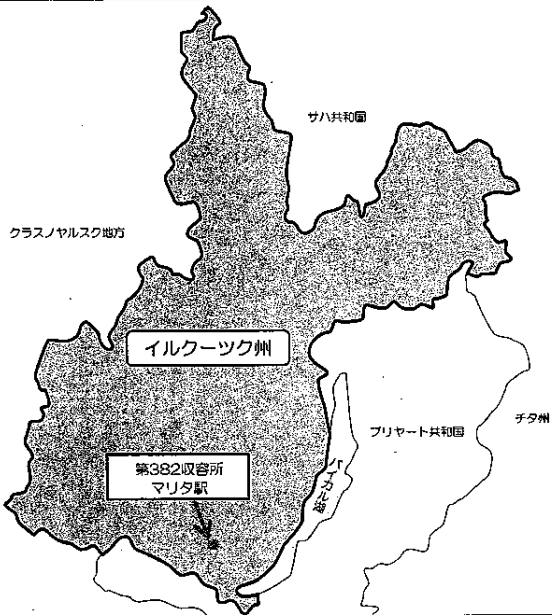


終戦71年目に届いた知らせ

8月15日に岐阜県健康福祉部地域福祉国保課長の名で大きな封筒が届きました。添付文のタイトルは「ソ連邦抑留中死亡者資料に関するお知らせ」とあり、本文は「このことについて、厚生労働省社会・援護局業務課長より依頼がありましたので、資料をお送りいたします。なお、このお知らせについて、他のご遺族の皆様へもお伝えいただければ幸甚に存じます。また、このお知らせに関するお問い合わせ等は、下記照会先へ直接お問い合わせいただきますようお願いいたします。」とあり、「照会先 厚生労働省社会・援護局業務課調査資料室調査班調査係 東京都千代田区霞が関1-2-2」となっていました。厚生労働省8月3日付けの同封された15ページの資料は「ロシア連邦政府等から提供された抑留者に関する資料についてのお知らせ」というものでした。



兄の実父 昭和22年9月24日 死亡 日本送還のため5月収容所転出も、肺炎に

文書は遺族である兄(松原のりかずの)あてに送付。資料によれば第77独立兵站警備大隊の義父は1945年8月23日ハルピンで捕虜になり、第7収容所に収容されている。45年10月に第7収容所第9支部に到着しているが、46年5月11日第3370病院に移送。47年5月13日マリタ駅第382収容所に転出(本国送還のため)したが、帰国を待つも9月24日に死亡。埋葬地はマリタ駅日本人墓地。

妻(兄の母) 既に死亡して2年に・・・

この知らせを、一番知りたかったであろう義父の妻、私の母は99歳で亡くなって2年になる。せめてもう5年早ければ、「知らせ」について母と話が出来たのではと思う。松原のりかずの実父もシベリアに抑留され、送還。戦争が昭和20年で終わらなかった人々が多くいた。戦争は、今も終わっていないと思えた。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500



6月議会に報告しなかった 岐阜市環境部 荏原環境プラント（株）の方針変更の事実

無所属クラブは18日、環境部に東部クリーンセンターの火災事故後の施設復旧で発生した「委託業者の合意変更（賠償額の値切り？）発言」について報告を求めました。3月17日に荏原Pは、当初の「全額荏原Pの責任で復旧する」との市合意と異なる「荏原合意書案（賠償額の値切り？）」を提示しました。復旧建設に必要な賠償額は約**40億円**と思われませんが、事故当時の火災被害施設の価格は荏原Pの主張では**3億円**程度になる可能性があるとのこと。

3月23日の荏原Pの説明に対し、環境部は「到底受け入れられない」と反論していますが、この重要な事実経過は6月定例議会に何ら報告されないままでした。それどころか、「**全額、荏原Pの負担で復旧する**」との説明が繰り返されていました。議会に対する**虚偽報告**です。

荏原Pとの協議は5月19日、6月2、15日、7月25日と継続されていますが、この間の設計作業が荏原Pにより継続されています。この経過が「**復旧工事を、賠償行為ではなく岐阜市からの工事発注とする。**」（荏原P主張）に沿う形になっていることに危惧を覚えます。無所属クラブは、環境部に裁判を意識した事務対応と早期決断を求めました。メディアコスモス1年点検結果を3月議会に報告しなかった「市民参画部」と同じ行為を繰り返す「環境部」に「**体質改善**」を強く指摘しました。



松原のりかず
☎058-253-2500